



LAB.GRUPPEN

Cafe

v1.4.1

Release notes

機能、互換性、及び既知の不具合に関する重要なお知らせ

Cafe Release Note

この度は、Lab.gruppen 製品のお買い上げありがとうございます。

このリリースノートには、新しい機能の追加や、修正された不具合の内容、また把握はしていますが解決されていない不具合を記載しております。これらを把握頂く為に、ご一読をお願い致します。

Café は、D シリーズおよび PLM+シリーズのためのシステム設計ツールと制御ソフトウェアです。

最新ソフトウェア情報

最新情報と新しいソフトウェアは、下記をご覧ください。

<https://www.labgruppen.com/Categories/c/Labgruppen/Downloads>

Facebook の@lab.gruppenl、Twitter の@labgruppenpower をフォローして頂けますと最新情報をお届けいたします。

テクニカルサポート情報

操作の詳細につきましては、このリリースに含まれております取扱説明書を参照下さい。また、は下記のサポートポータルサイトをご覧ください。

<https://www.labgruppen.com/brand/labgruppen/support>

オンライン・テクニカル情報、FAQ 及びサポート・リクエストは下記をご覧ください。

<https://music-group.force.com/musickb/brand?name=lab>

また、Lab.gruppen の YouTube チャンネルの「CAFÉ COACH」のチュートリアル・ビデオでも最新情報をご確認頂けます。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLeiaPYZpqGR8YpR9J7aeqcP8qYvqSS-qz>

概要

Café のリリース v1.4.1 では、「インピーダンス・スウィープ・エクスポート」の出力ファイルのフォーマットが改善されました。

インストーラーのソフトウェアとファームウェアの構成

Component	Version	New in v1.4.1	Full Version Information
CAFÉ (Windows)	1.4.1	×	1.4.1-4-g9ab45e4
Frontend	1.4.1.1	×	1.4.1.1-ga2a099b
Backend	0.1.2.238	×	0.1.2.238-gcefabe0
CAFÉ (Mac)	1.4.1	×	1.4.1-4-g9ab45e4
Frontend	1.4.1.1	×	1.4.1.1-ga2a099b
Backend	0.1.2.238	×	0.1.2.238-gcefabe0
Tutorial			1.2

インストーラーのソフトウェアとファームウェアの互換性

このバージョンでは、Lake Release v6.6.1 以降の Firmware を使用している全ての D シリーズ Lake、PLM+、PLM をサポートしています。

Product	Firmware version	In release
D Series Lake	3.30	Lake Software v6.7.0
PLM+ Series	3.30	Lake Software v6.7.0
PLM Series	5.01	Lake Software v6.7.0

【重要なお知らせ】

- Firmware v3.10 以前の PLM+および D シリーズでは、Café v1.4.×からは認識出来ません。
- D シリーズ TESIRA は Café1.4.×は対応していません。

【Project files】

- Café v1.4.×では、Café v1.2.×と Café v1.3.×に保存されたプロジェクト・ファイルを開くことができます。Café v1.1.×に保存されたプロジェクト・ファイルは、Café v1.4.×では直接、開くことが出来ませんので、Café v1.2.×もしくは、Café v1.3.×で開き、Café v1.2.×または、Café v1.3.×のファイルとして保存しなおす必要があります。

Cafe v1.4.1

- ・インピーダンス・スウィープ・エクスポートの「CVS ファイル」のフォーマットを、分析ソフトウェアへのインポートが容易になるように改善しました。

Cafe v1.4.0

- ・ PLM5K44 へ対応しました。
- ・ ESP への対応機種に PLM+シリーズが追加されました。
- ・ インピーダンス・スウィープ用の新しいエクスポート機能を追加しました。
- ・ フレームと PC のデータのパラメータ同期は、リアルタイム同期に変更しました。
- ・ デバイスがオフラインになっている間のパラメータ変更により、再びオンラインになった時の、デバイスと PC のパラメータ不一致が発生した場合、デバイスに「Sync conflict」が表示され、PC 画面の右上に、「View Sync Conflicts」ボタンが表示されます。
- ・ フレーム ID に代わり、シリアル No.がデバイス ID として表示されます。
- ・ Café と Lake Controller の両方で「パワー・チャンネル・ラベル」の表示が出来るようになり、2つのソフトウェアで並行する設定を容易にしました。(Lake Controller v6.6.0 以降)
 - 「パワー・チャンネル・ラベル」は、ESP で設定された Café 上のチャンネル名です。
 - ESP の設定ではなく、Discovery で設定したデバイスの場合、チャンネル・ラベルは、Lake のモジュール名とモジュール出力ラベルの組合せです。
- ・ PLM20000Q、PLM10000Q、PLM14000 がオンライン・ビューで認識出来るようになりました。
ただし、これらのレガシーモデルで使える Café の機能には制限があります。
- ・ オフライン・ネットワークの選択が追加されました。
 - オフライン・ネットワークが選択されている状態で、プロジェクト・ファイルを開いた場合、ネットワークはオフラインのまま維持され、プロジェクト・ファイルにあるオンライン・デバイスにリコールされません。
- ・ オート・セーブ機能は継続しなくなりました。
- ・ 最後に開いていたプロジェクトは、次に Café を起動した時、自動で読み込まれなくなりました。
 - Café v1.4.0 で、使用していたファイルを Café v1.3.3 から読み込む必要がある場合、
C : ¥Users¥{YourUserName}¥AppData¥Local¥Café からファイル・コンフィグレーション
Café xml を目的の Café プロジェクトのロケーションに移動させます。
この移動したファイルは、より解り易い名前での保存が出来ます。
- ・ Café からアッティネータをコントロール出来るようになりました。
- ・ 「Select Me」を使用したフレームの関連付けは、物理フレームで「Select Me」を押すことで機能します。
(Ping の操作マニュアルを参照下さい)
この機能により、「Associate Frame」ビューでは、物理フレームと同じモデルの全ての仮想 ESP フレームの関連付け機能が有効になります。選択された仮想フレームの 1 つを、選択された物理フレームに、ワンクリックで関連付けが出来ます。

- ・ビューの更新と並び替え(ソート)を改善しました。
 - 注意：ビューが選択されている時、ソート入力が集約されます。
 - 例えば、フレーム・ビューを数分間選択している場合、「Frame Temp」のソートは正しく行われませんが、ビューを変更する事で正しく実行出来ます。
- ・ネットワークの選択は、Café 起動時に表示されます。
- ・互換性のない Firmware のデバイスの処理を改善しました。
- ・TESIRA デバイスは、サポートしていません。
- ・「Not Associated」タグは「Virtual」タグに名称を変更しました。
- ・デバイスごとにオフライン・モードを選択出来ます。
- ・エラー処理を改善しました。
- ・「Frame」ビューのシグナル LED は、いずれかのチャンネルに信号がある場合に点灯します。
- ・「Google Analytics」を使用してデータ収集を行い、より良い製品を作り出すサポートをします。
- ・Café は、Windows32 ビット版と 64 ビット版に対応しました。
- ・Café はアプリケーションが予期せず終了する、などの重要な問題のサポートに役立つログ・ファイルとダンプ・ファイルを作成します。ファイルは以下の場所に作成されます。
 - Windows : C:\Users\{USERNAME}\Cafe\logs
 - Mac : cores/core. {pid}
- ・Breaker Emulation Limiter(BEL)は「Actual Value(希望値)」がハードウェアの仕様に適合しない場合、[]内に表示される(Lake Controller と同様)公称電流とプロファイルの実際の値を表示します。
- ・インピーダンス・スイープ・ビューで、LoadPilot の低周波数と高周波数が表示されません。

把握している不具合

Key	内容
FROD-522	アンチ・ウィルス・ソフトウェアにより、パフォーマンスが低下する可能性があります。 パフォーマンス上の問題が発生した場合には、アンチ・ウィルス・ソフトウェアを無効にして下さい。
FROD-263	「Amp Location」ビューのパブリッシュ・インジケータが、マッピングが変更された時に更新されない。
FROD-273	同期ウィンドウの表示終了後、Frame ビュー画面で、「シンク・コンフリクト」のポップアップがスクロール表示される。
FROD-266	リセットで「Placement」が消去されない。
FROD-233	「Automap」で「Global vs Room」(部屋が1つしかない場合)を行うと、間違った結果になる。
DS-781	高い抵抗値のスピーカーのロード・パイロットが動作しないことがある。
DS-777	新しいゾーンを呼び出した時、ケーブル長制限が設定されず、かつ"0"にも固定出来ない。 長い長さを入力すると赤色に表示され、入力が出来ません。 回避策：新しいゾーンを呼び出す前に、LSP テンプレートを追加します。 (十分なケーブル長を確保して下さい)
DS-714	入力されたケーブルのインピーダンスが、測定されたインピーダンスを超えている場合、インピーダンス・スイープはポジティブ・インピーダンス・カーブを表示する。
DS-419	ESP ビューで、検索フィールドのフィルタリングが機能しない。

LoadPilot による監視の推奨事項

LoadPilot 機能は、接続された負荷を正確に監視することができ、ラウドスピーカーとケーブルの障害を検出します。LoadPilot は、EN54-16 および、その他の音声による避難基準に準拠したスピーカー監視を実現出来るように設定が出来ます。負荷の正確な監視のためには、以下の点に留意下さい。

- ・ Café は、自動もしくは手動でキャリブレーションしたシーケンス及び、有効化が実行されている。
- ・パイロット・トーン周波数でのラウドスピーカーのインピーダンスは $1.4\Omega \sim 400\Omega$ で安定している。
- ・接続される負荷は下記になります。
 - 1本のラウドスピーカー
 - パラレル接続された2本のラウドスピーカー(単一の故障の検出)
 - シリーズ接続された複数本のラウドスピーカー
 - シリーズ接続されたラウドスピーカーを2つパラレル接続(1本のチェーンの故障を検出)
- ・ケーブル・インピーダンスは、パイロットトーン周波数で接続インピーダンスの33%未満であること。
- ・変圧トランスやハイインピーダンス・スピーカーの場合、パイロットトーン周波数におけるインピーダンスが安定しない場合があります。例えば、温度やトランスの飽和度に依存してしまう。
条件の厳しいアプリケーションでは、1トーンしか使用出来ない場合があります。その場合には、エンド・オブ・ライン・デバイスやブロッキング・コンデンサを使用する必要があることがあります。